

第1章

目指すまちの姿



人を育み
未来につなぐ

1 基本理念

本市の今後のまちづくりについての考え方を基本理念として定めます。

人を育み 未来につなぐ

美しい自然や景観、伝統文化など、
先人から受け継がれた
有形無形の財産を守り、育て、
次世代につなげていくのは人であるため、
人を育み、未来につながる飛騨高山を目指す

人口減少や少子高齢化の進展によって市民生活に及ぼされる様々な影響への対応が、喫緊の課題となっています。

今後、人口規模などが縮小する中では、あらゆる場面においてこれまでどおりの状態や環境を整えていくことは困難になることが予想されます。

このような中、第九次総合計画の策定に向けた市民意見交換会等においても、こどもや子育て世帯への支援、若者の地元回帰や活躍の場の提供、様々な分野における担い手の確保や育成など「人」に関する意見等が多く寄せられています。

そのため、第九次総合計画では、こどもや若者をはじめとする未来の飛騨高山を支える「人」が、飛騨高山でやさしさにつつまれて健やかに育ち、生き生きと活躍することで、飛騨高山の未来につなぐことを基本理念とします。



2 都市像

本市の将来のあるべき姿を都市像として掲げます。

暮らす人、 訪れる人が 「しあわせ」を 実感するまち 飛騨高山

飛騨高山に暮らす人、訪れる人などすべての人が、日々の暮らしや活動などの様々な場面で「しあわせ」を実感し、充実した日々を過ごすことができるまちを将来の姿として描きます。

特に、未来につながる「人」づくりを基本的な考え方として、分野横断的な取り組みや地域が連携・一体化した取り組みによって、年齢や性別、国籍などに関わらず、すべての人が誇りと愛着を持って、「しあわせ」を実感するまちづくりをすすめていきます。



3 人口の将来展望と計画人口

(1) 人口の将来展望

人口減少の進展とともに高齢化率が上昇し、年少人口と生産年齢人口の割合が低下するという人口動向を考慮し、持続可能なまちづくりをすすめるため、人口減少の緩和に加え、人口構造のあり方(支える側と支えられる側のバランス)という視点を重視し、目指すべき人口の将来展望を設定します。

①自然動態の改善

合計特殊出生率を令和32(2050)年までに段階的に2.03に上昇させることを目指し、今後も続く少子化の抑制を図ります。

②社会動態の改善

生産年齢人口における社会増減(転入数と転出数の差)を段階的に改善し、令和32(2050)年を目標に転出超過を解消することで、人口減少の抑制を図ります。

特に、10代後半から20代前半の一時的に市を離れる若者が将来戻りたくなるまちの実現を目指します。

③将来展望の設定

目指すべき人口の将来展望(令和32(2050)年)を58,000人とします。

(2) 計画人口

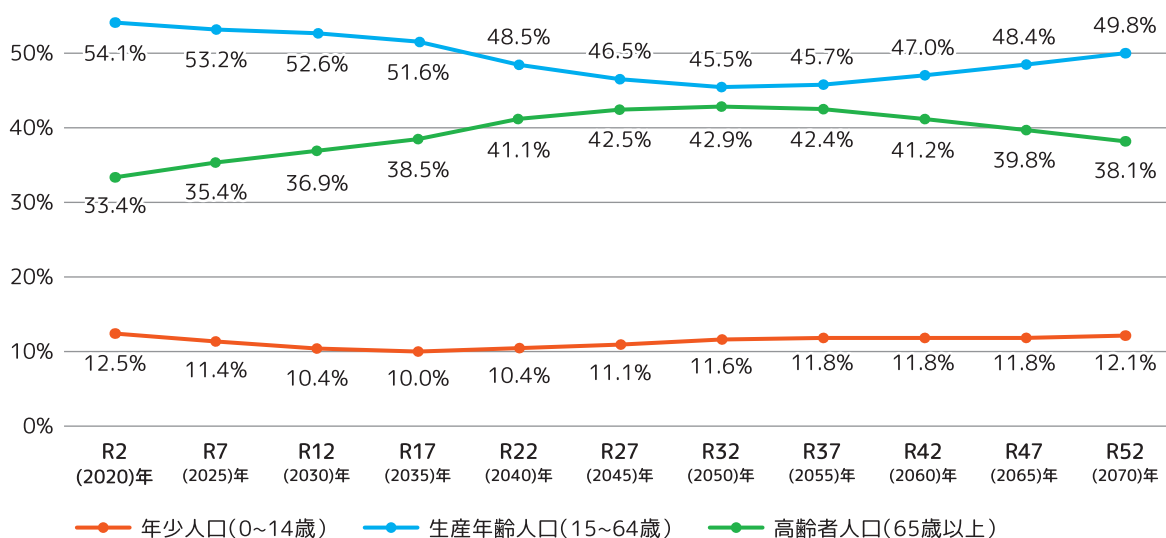
人口の将来展望を踏まえ、計画人口(令和17(2035)年)を69,000人とします。



人口の将来展望の年齢3区分別人口・割合

(単位:人)

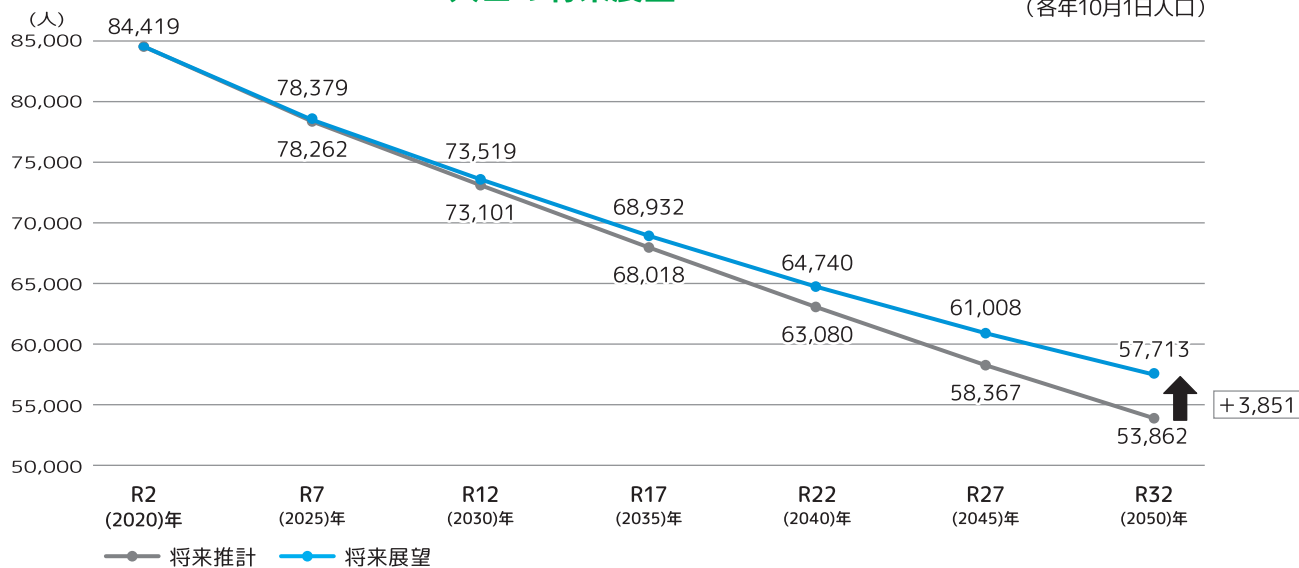
	R2 (2020)年	R7 (2025)年	R12 (2030)年	R17 (2035)年	R22 (2040)年	R27 (2045)年	R32 (2050)年	R37 (2055)年	R42 (2060)年	R47 (2065)年	R52 (2070)年
年少人口 (0~14歳)	10,554	8,943	7,672	6,880	6,734	6,745	6,721	6,440	6,022	5,593	5,377
生産年齢人口 (15~64歳)	45,703	41,676	38,698	35,545	31,376	28,348	26,237	24,861	23,920	22,988	22,086
高齢者人口 (65歳以上)	28,162	27,760	27,149	26,507	26,630	25,915	24,755	23,045	20,958	18,909	16,893
総 数	84,419	78,379	73,519	68,932	64,740	61,008	57,713	54,346	50,900	47,490	44,356



出典: 国立社会保障・人口問題研究所推計を基に高山市が推計

人口の将来展望

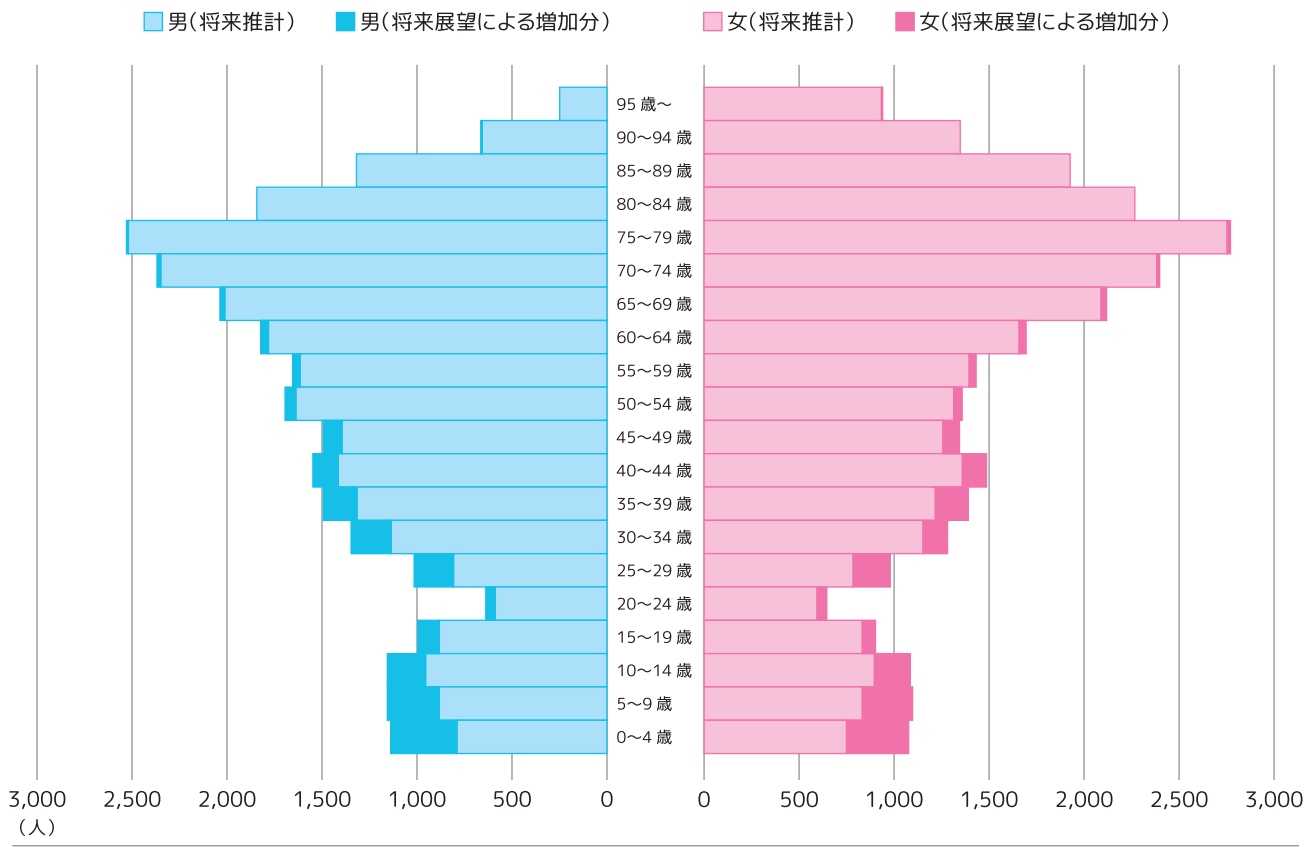
(各年10月1日人口)



出典: <将来展望> 国立社会保障・人口問題研究所推計を基に高山市が推計

<将来推計> 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年8月推計)」

令和32(2050)年の将来推計と将来展望の人口構造の比較



出典: <将来展望>国立社会保障・人口問題研究所推計を基に高山市が推計



地域別の人口の将来展望

(人)

地域・地区		実績値		将来展望						人口増減率 (R2年→R32年)	高齢化率 (R32年)
		H27 (2015)年	R2 (2020)年	R7 (2025)年	R12 (2030)年	R17 (2035)年	R22 (2040)年	R27 (2045)年	R32 (2050)年		
高山地域	東	1,838	1,604	1,448	1,307	1,170	1,053	952	873	▲ 45.6%	49.4%
	西	4,497	4,179	3,771	3,411	3,084	2,788	2,541	2,353	▲ 43.7%	48.3%
	南	7,684	7,111	6,624	6,231	5,848	5,475	5,146	4,868	▲ 31.5%	42.8%
	北	11,144	11,249	10,676	10,181	9,678	9,220	8,830	8,475	▲ 24.7%	41.3%
	山王	9,326	8,907	8,377	7,932	7,492	7,086	6,727	6,401	▲ 28.1%	42.4%
	江名子	4,087	3,991	3,747	3,553	3,385	3,243	3,118	2,993	▲ 25.0%	41.3%
	新宮	7,244	6,961	6,473	6,188	5,910	5,656	5,409	5,171	▲ 25.7%	40.5%
	三枝	2,864	2,852	2,667	2,529	2,385	2,243	2,129	2,026	▲ 29.0%	40.7%
	大八	7,180	6,809	6,377	6,067	5,756	5,450	5,147	4,881	▲ 28.3%	41.3%
	岩滝	350	329	311	291	271	252	233	214	▲ 35.0%	44.4%
	花里	6,104	5,647	5,248	4,936	4,628	4,344	4,098	3,890	▲ 31.1%	41.7%
小計		62,318	59,639	55,719	52,626	49,607	46,810	44,330	42,145	▲ 29.3%	42.1%
丹生川地域		4,251	3,983	3,680	3,436	3,208	2,998	2,814	2,641	▲ 33.7%	44.1%
清見地域		2,363	2,166	1,978	1,824	1,694	1,573	1,453	1,346	▲ 37.9%	46.7%
荘川地域		1,240	1,010	911	824	746	677	616	565	▲ 44.1%	47.8%
一之宮地域		2,484	2,355	2,185	2,031	1,887	1,758	1,648	1,551	▲ 34.1%	44.9%
久々野地域		3,539	3,184	2,892	2,639	2,429	2,261	2,112	1,983	▲ 37.7%	43.2%
朝日地域		1,656	1,438	1,279	1,152	1,048	954	866	787	▲ 45.3%	50.6%
高根地域		334	278	248	214	179	146	119	98	▲ 64.7%	59.2%
国府地域		7,743	7,537	6,901	6,398	5,946	5,543	5,195	4,881	▲ 35.2%	44.4%
上宝・奥飛騨温泉郷地域		3,254	2,829	2,586	2,375	2,188	2,020	1,855	1,716	▲ 39.3%	44.2%
計		89,182	84,419	78,379	73,519	68,932	64,740	61,008	57,713	▲ 31.6%	42.9%

出典：＜実績値＞総務省「国勢調査」、＜将来展望＞高山市（地域間の移動は考慮していない）
 地域別の人口は、町丁・字などで集計（まちづくり協議会の範囲とは一部異なるところがある）





人を育み
未来につなぐ